

IV. 目標とする樹林

樹林を整備するにあたっては、目標とする樹林を設定する必要があります。

目標とする樹林は、整備対象地のもつ立地条件特性（気候、地形）と、現存する生育種の構成、および周辺の植生状況を総合的に判断して設定します。

基本的には樹林整備の基本方針である**落葉広葉樹林を目標樹林**として設定します。

なお、良好な常緑広葉樹林（極相林）や社寺林に隣接する地域などでは、常緑広葉樹林を目標樹林として設定することもあります。

立地条件特性から選定候補となる群落・群集

地形 標高	落葉広葉樹林			常緑広葉樹林		
	谷	斜面	尾根	谷	斜面	尾根
750m 以上	ブナ・シラキ群集 (極相林)					
	コナラーアベマキ群集					
450~ 750m	エノキ ムクノキ群集		ウラジログシ サカキ群集(極相林)			
	コナラーアベマキ群集					
450m 以下	エノキ ムクノキ群集			コジイ カナメモチ群集(極相林)		
	コナラーアベマキ群集			アラカシ群落	ウバメガシ 群落	

(落葉広葉樹林)



●コナラーアベマキ群集

アカマツ・モチツツジ群集と共に、六甲山を代表する林です。つい20~30年前にはアカマツ林だったところのマツが枯れてコナラーアベマキ群集になった、という林も多くみられます。



●エノキムクノキ群集

水害時には土砂が崩れ落ちるような、谷筋や斜面の下部などにできる林です。国蝶のオオムラサキ（幼虫）は、エノキの葉を餌として、落ち葉の裏側で越冬します。



●ブナシラキ群集

六甲山では唯一の落葉広葉樹の自然林です。高海拔域（750m以上）にごくわずかに残されています。この林の構成種によって、六甲山の植物の種類がより豊かなものとなっています。

（常緑広葉樹林）



●ウラジロガシサカキ群集

六甲山の中海拔域（450～750m）において、神社やお寺の林として保護されてきた貴重な林です。はげ山になるまで伐採し尽くされた林が六甲山系の大部分を占める中、かつて広がっていた常緑広葉樹林の構成種を今に伝えています。



●コジイ・カナメモチ群集

六甲山の低海拔域（450m以下）において、お寺の林として保護されてきた立派な林です。六甲山が広くはげ山だった時代にも、林として存在していたことが、江戸時代末期の絵図や明治時代初期の地形図などからわかっています。



●ウバメガシ群落

ウバメガシの林冠が連なり、まるで、林の上に濃い緑のカーペットを広げたように見える林です。海岸沿いの急斜面に見られる林で、六甲山では須磨地区周辺に広がっています。



●アラカシ群落

林冠にアラカシやヤマモモ、ヒメユズリハなどが優占する群落です。谷沿いの急傾斜地に成立している常緑広葉樹林の多くはこの群落です。表六甲の山麓を中心に、分布が広がっています。